



自ら掴む経営エッセンス!

(記事: 渡部成夫 過去記事も読めます⇒<http://idoina.com>)

4/29(火)

テーマ: 『後継者育成なくして事業継承はない』

出席17社17名

(美浜15、他会2、非会員0)

講師: 新潟県倫理法人会後継者倫理塾塾長
新潟南倫理法人会相談役 阿部 治雄 氏



Haruo Abe

「人に好かれること」、「気付いた自分から合わせること」。この効果を阿部氏が証明!

阿部氏が塾長を務める新潟県の後継者倫理塾には、最初から来たくて来ている塾生はいない。「徹底的にやってくれ」と預けられた子がほとんどだから、最初は優しく、少しずつ厳しくしていく。ところが半年も経つと、塾生たちは深い絆で一緒に厳しさを乗り越え、ほとんどの父兄は、「変わったよなあ」と実感するようだ。

阿部氏は、「塾生以上に、教え役が燃えることが大事」という。本気で叱ったり教えることは、エネルギーを使う大変なこと。でも、そうでないと教え子はだらけてしまう。燃えるような情熱は、指導者に不可欠なポイントだ。

「親」という字の意味

親は自らの体験に基づいて、「これは良い、これは悪い」と子を教育するが、他人の子は素直に「はい」と聞いてくれるのに、自分の子は反発する。父と息子は男同士、ぶつかるところがある。

後継者、それは経営者共通の悩みだ。他人でも良ければ、優秀な人材の中から後継者を選べる。しかし、たとえ出来が悪くても、やはり自分の会社は自分の子に継がせたい。これが人情だ。

「親」という字は、「木の上に立って見る」と書く。「ぐちぐちと細かいことを言わず、黙って見守る。子が本当に危ない時に手を貸せば良い」の意だ。阿部氏は、「自分の子の教育は、やはり人様をお願いするのが良い」と感じている。

素直だから、伸びる。人に好かれる。経済も豊かになる。

人は皆、同じ様にチャンスがある。自分の才能が分かる人なんて、そうはいない。突然化けるもの。小・中学校といじめられっ子だった阿部氏もそうだった。強くなりたくて、高校ではレスリング部に入った。1年生の時は1試合も勝てなかったが、3年生では無敗で全国優勝、大学進学後も全米選手権・ヨーロッパ選手権など、国際舞台での優勝も果たす。スポーツの世界で学んだことは、ビジネスにも通用した。社会人になって8年目、自動車販売で全国セールスマン大賞に輝いた。

では、どんな人が成長が早いかというと、それは人に好かれる人だ。人の助言を素直にやってみる人だ。昔は、「自分の仕事ぶりを見て覚えろ」という先輩が多かったが、今は違う。早く吸収してもらいたいと、様々な助言をしてくれる。素直に真似できる人は、可愛がられる、成長も早い、ミスもカバーしてもらえる。逆に、「そんなことはわかっている」と反発して真似できない人は、何事もうまくいかないだろう。

経営者の仕事は、船の行く方向を定めること。

本当の経営者は、仕事ができなくても、経営ができればいい。経営で大事なのは、お金の遣い方、特に、人物をよく見て、人への投資の判断をして、自分と波動の合う本物の人材を集めることだ。また、船の行く方向を定めるリーダーシップが必要だ。あまり民主的に皆の意見を聞き過ぎると、方向が決まらずに、皆が迷ってしまう。だから、自分のやり方や考えを伝えて、それについてきてもらうことが大切だ。

そして、後継者の育成。企業の後継者だけでなく、自分の家の後継ぎを、しっかりと育てたい。やはり、後継者が決まっている会社は、親が安心して早くに引退している。赤字の会社ではなかなか後継者も決まらない。

今、中小企業の7割は赤字で、10年生き残れる会社はわずか10%しかないが、「ピンチは、ありがとう」だ。人間は心の有り様で決まる。最後は真面目な人が勝つ。そういう人が成功する。人生はなかなか思い通りにいかないが、人の批判をせず、気付いた自分の方から合わせれば、和が生まれ、道が開ける。自分が育ったものさしにこだわらず、頭を柔らかく。「死ぬ勇気があれば、何でもできます」と阿部氏はいう。

次回 第876回MS! 5/13(火)6時~7時+朝食会 ホテルニューオータニ幕張(043-297-1777)

講師: 我孫子市倫理法人会 真仲俊雄 相談役

できるできるやればできる!

明るく楽しくなければ倫理じゃない!

・会員120社・MS30名以上・美浜を美しく